

第3回議員報酬等審議会

日時:令和6年1月17日(水)午前10時30分から午前11時05分

会場:市役所会議室402

出席委員:上子会長、有村委員、植田委員、上野委員、中村委員、深澤委員

欠席委員:藤井副会長、瀧川委員、山本委員

事務局:対話推進部長、議会事務局次長、職員課長、職員課主幹

議事 審議

案件 答申案について

(会長)答申案について議論いただく。まず事務局の方から説明のあと、1月11日の京都新聞朝刊に掲載された府内25市町村の実質単年度収支に関する記事について解説する。前回の議論では、大変な仕事をしているのだから遠慮ばかりしていることもないのではないかという主旨の発言もあったため、それを踏まえて答申案の概要を事務局から説明してほしい。

<事務局より答申案について説明>

(会長)答申のポイントだけを繰り返すと、特別職については、一般職と比べて据え置かれていることもあり、暫定的に下げているものは戻してよいのではないか、形式的には新たに上げるのではなく、附則で下げるという特別措置を講じている分について元に戻すというのが一点目。改定の時期は令和6年4月1日となっているが、一般職の改定は年度の初めにさかのぼって適用されるので、疑義を生じないように明記している。退職手当についても、本会の審議事項ではないが、給与の括りとしては同じだからよく考えてくださいということも入れている。議員報酬の方は生活給かどうかという性格がはっきりしていないのでなかなか難しいところがあるが、25年も据え置いている、物価情勢も大分変わってきているところであり、よく考える必要があるということ。また、審議会を9年も開催していなかったが、もう少し開催してはどうかということ。

財政状況について、新聞記事に書いてあることが、ある意味どうかというところがある。自治体は会計の仕方が違って、複式簿記ではなく単式簿記。現金の出納を基本にしている。今年の赤字黒字は、借金を含めた収入と支出の差になる。去年の繰り越しと今年の年度末残高の比較なので、年度末にいわば通帳にいくらあるかで、減っていたら赤字。残高には借り入れたお金が入っているため、借りるお金が減ると赤字になる。自治体の場合は赤字、黒字そのこと自体を気にする必要はない。気にする必要があるとすると、最大限に借入れをしても足りない状況だが、そうでなければ、財政状況が良いという説明と矛盾するものではない。実質単年度収支が赤字かどうかは問題ではない。どれだけ借入れをしているかが反映されていないため、これが財政状況を反映するものではない。

(事務局)本市では、昨年度、後年の財政負担に備えるために公共施設整備基金に5億円を積んでいる。普通預金から定期預金に積み立てたようなもので、そのために普通預金残高が昨年度を下回ったような状況である。記事にあるように、実質公債費率の府内平均が8.2%のところ長岡京市では2.7%ということなので、赤字に転落というタイトルをみたら驚かれると思うが、実際は心配するほどではない。

(会長)今の説明で長岡京市の状況は、十分説明できると思う。

(委員)簡単にお聞きするが、2021年度は単年度収支で15億円プラス、2022年度はマイナス1億円。5億円を定期預金に回したところで、収支で考えるとあと9億円くらいあると思うが、こういったことに使われたのか。大きな給付やコロナ対策などか。

(事務局)2021年という、コロナ対策の関係で国から多額の交付金などが入っていたが、そのうち次年度に繰り越して支出したのも多くあったので、単年度収支でプラスが大きくなった要因の一つとなっている。

(委員)2021年は国から特別交付金が入って繰越額が大きくなったが、それは市民のために使うものであって、2022年度は、整備費用や、高齢者対策やコロナ対策の給付に使ったところ、最終的に単年度赤字になったということと理解した。では、2023年度は3月までの決算を考えるとどのような見込みか。経常収支比率は大丈夫か。

(事務局)決算はまだこれから先だが、財政運営上はしっかりできているので、若干赤字になったとしても心配ない状態だと考えている。当初予算で取り崩し予定であった財政調整基金については、取り崩さずに済んでいるということを経過として聞いており、今年度に入って財政状況が大きく変化しているとは考えていない。

(委員)そうであれば、健全だと判断できると思う。

(会長)自治体予算は5月末まで出納整理するので、今の段階では最終的な数字がわかる段階ではない。この段階で税収や地方交付税が大きく落ちていれば、大変だという話が当然出ているはずだ。

(委員)第1回の資料4を見ていて気になったのだが、平成28年に単年度収支と実質単年度収支が大きくマイナスになっている。財政調整基金の残高も3億円以上の減額となっているが、何が原因だったのか。

(事務局)まず、平成27年度は、本市にある企業の業績が良好で市税収入が増えたため、財政調整基金に前年度よりも4億円多く積み増ししていること。一方、平成28年度は、税収が落ち着いたところに、前年の市税増により地方交付税が減額されたこと。当初予算を編成するにあたり、財政調整基金からの繰り入れを行ったが、年度内に基金に返すことができなかったこと。簡単に言うと、これらの理由による結果である。

(会長)ほかに意見はあるか。特別職給料は暫定減額しているものを戻してはどうか、一緒に退職手当のことは議論してほしい、議員報酬については、言いつらい部分もあるが、25年も動いていないということについては、実質的に目減りしている可能性があるので考えてくださいという答申内容でよろしいか。

(委員各位) (了)

(会長)欠席の方にも答申案をお送りしてご意見をうかがっていると聞いている。市長に対してこの内容で答申を行いたいと思う。ご協力ありがとうございました。事務局に進行をお返す。

(事務局)事務局で字句の訂正箇所を訂正して、会長から市長に答申いただくので、よろしくお願いいたします。後日、訂正後の答申写しとあわせて今回の議事録要旨を送付させていただくので確認をお願いします。それでは、これにて閉会とさせていただきます。